

平成最後の成人式 賑賑しく行われる



1月3日 ゆめあるて



第 695 号
発行人 ● 豊丘村公民館 館長 原 国人
編集人 ● 長野県下伊那郡 豊丘村公民館報 編集委員会
0265-35-9066
印刷所 ● 龍共印刷株式会社

私たちの村
(1月1日現在 ※外国人を含む)
男 3,348人
女 3,384人
総人口 6,732人
世帯数 2,149戸

明けましておめでとうござい
ます。村民の皆様には清々
しいお気持ちで新しい年を迎
えられたこと存じます。本
年もどうぞ宜しくお願いいた
します。

さて、「ゆめあるて」とい
う名称の公民館は平成二十
六年にオープンして以来四年
が経過しましたが、有利な立地
施設の快適さもあって、村内
外から年間二万七千人余の皆
様が利用されています。その
名の如く、ゆめを育む様々
な活動が日夜行われているこ

う、梨りん、などの果樹
や、野菜はもちろんのこ
豊丘村の最大の秋の収穫、松
茸の大豊作をうけて、農産物
直売所は開店当初五月の大型
連休並みの売上を記録しまし
た。

出荷者からは、「毎日商品
を持ち込み、売れていくこと
に敬意と感謝を申し上げます。
私は、三年前にこの職を拝
命して最初に感じたのは、「ゆ
めあるて」の広々としたロビー

明けましておめでとうござ
います。
農業所得の向上を図り、遊
休農地の拡大を防ぐ、さら
に豊丘村の経済、観光、文化
の中心地としての機能を合
せ持つ、公設民営の道の駅
「南信州とよおかマルシェ」
が、昨年の四月、村道第一
貫道路沿いにオープンし、ハ
ヶ月が過ぎました。

が楽しみです」「生活に張り
合いが出来ました」との言葉
もよくいただきます。まさに
村民の皆様健康寿命を延伸
し、農地を守る、さらには
ショッピングを楽しみながら
食事をしたり、お茶を飲ん
だりできる憩いの場を提供で
きたことによる、人と人との
コミュニケーションの深化、また
経済効果も大いに期待でき
ます。

年頭のあいさつ
可能性豊かな、未来の
あるべき姿に向けて
村長 下平喜隆

のアプローチがもつ意味で
した。ここに物語が生まれる
と感じたのです。人と人が行
きかい言葉交わす。丸テー
ブルでちよつと打ち合わせし



り、子供たちが宿題に取り組
む。まるで街なかの路地よう
な雰囲気がある、これもいい。
「私」が言いたいのは、人
々が緩やかにつながり、決

あけましておめでとうござ
います。年頭にあたり、日頃
ご理解とご協力を賜っている
ことに心より感謝申し上げ
るとともに、皆様方のご多
幸を心より祈念いたします。
昨年の世相を一字で表す漢
字は、残念ながら「災」とい
う漢字でした。北海道胆振
東部地震、大阪北部地震、西
日本豪雨といった自然災害
が多かったこと、あおり運
転やスポーツ界のパワハラ問
題など人の行う行為として
信じ難い事故や事件も多く、
これらを人災と呼ぶことなど
反映されたものだそうです。



豊丘村においては、道の
駅「南信州とよおかマルシェ」
の開店、松茸の大豊作、新
万年橋の架橋促進など明る
い話題の多い一年となった
と感じています。

遠南信自動車道の開通へと続
きます。まさに私たちの暮ら
しているこの伊那谷に、かつ
て誰も経験したことのないよ
うな大きな変化の波が押し寄
せてくることは間違いありま
せん。
可能性豊かな、未来のある
べき姿に向けて、この道の駅
をオープンしました。

て一人ではないことを確認で
きる場がゆめあるてであり、
それを象徴するのがロビー空
間であると考えます。……
ところで、生活に身近な隣

私とつながる人々
公民館長 原 国人

組、自治会や区、或いは分館
日赤、安協農協など目的別
各種団体の活動も、人が地域
つながる絶好の場です。様々
な地域の歯車がうまく機能し
てきています。

「『私』とつながる人々」は誰か
「周りのために私にできるこ
とは何か」と考えると、これま
で培って来られた経験が役
立っています。
親の世代が好んで使ってい
た言葉に「よりあう」があり
ました。その姿を次の世代に
見せていきたいものです。

豊丘村においては、道の
駅「南信州とよおかマルシェ」
の開店、松茸の大豊作、新
万年橋の架橋促進など明る
い話題の多い一年となった
と感じています。

活力に溢れる、ふるさと豊
丘の将来に向けて、村民の皆
様の御支援、ご協力をお願い
申し上げます。新年のご挨拶と
いたします。

で地域が持続していくには

「私」が言いたいのは、人
々が緩やかにつながり、決

「私」が言いたいのは、人
々が緩やかにつながり、決

「私」が言いたいのは、人
々が緩やかにつながり、決

「私」が言いたいのは、人
々が緩やかにつながり、決

段丘
昭和生まれの人にとって
懐かしい響きの「昭和」と
いう言葉。昭和の頃には明
治や大正と呼ぶ年号が、と
ても古い言葉として感じら
れたが、昭和もやがて平成
と呼ばれるようになり、新
時代を予感させる新鮮な響
きがもたらされた。平成に生
まれた新人類たち、聞こえは
良いが働き者の昭和世代か
らすると物足りなさを感じる。
幼少期には近所の子ども
たちが集まり、日が暮れる
まで思い切り遊んでいた。懐
かしい幾つかの遊びに「石
けり」「ゴムとび」「杉玉
つぼり」があり、先日久しぶ
りに目にした「ゴムとび」を
現代風にアレンジしてしか
も級審査まであるというの
だからびっくりしてしまう。
昔の遊びを再現し、時代
に合わせた競技も目につく
ようになった。わらべ唄も
今では色あせて唄い伝える
人も少なくなっているが、
懐かしさを覚える遊びと唄
は、いつまでも不滅であっ
て欲しい。

新しい年号が何になるに
せよ、新しい感覚の平成び
とが次の世代に伝えられ
ばならない、教えないけれ
ばいけないことは数多く残
されている。これを成し遂
げるためには地域を知り、理
解をして子どもに接するこ
とで、なんなく解決できる
のだと思う。新しい時代の
子どもたちに日本人の素晴
らしさを伝えたい、親の努
めが始まるのだ。

「私」が言いたいのは、人
々が緩やかにつながり、決

「私」が言いたいのは、人
々が緩やかにつながり、決

「私」が言いたいのは、人
々が緩やかにつながり、決

「私」が言いたいのは、人
々が緩やかにつながり、決

平成三十年度成人式

常に向上心を持って前進を

新成人65名出席

平成三十年度豊丘村成人式が一月三日の午前十時から、交流学習センターゆめあるての大ホールで行われました。雲一つない晴天のもと、あでやかな晴れ着やスーツに身を包んだ新成人と、新成人の門出を祝う多くの保護者の皆様が集い、盛大に式を執り行うことができました。今年度は対象者八十六名のうち六十五名が出席し、懐かしい顔ぶれとの再会に話は尽きず、会場は終始和やかな雰囲気にも包まれました。式では、新成人を代表して実行委員の唐澤茉実さんが力強い宣誓を行い、来賓や恩師からは成人を祝福する言葉が贈られました。また、実行委員長の佐々木雄司さんは、「家族や先生方、地域の皆様への感謝」と共に、「責任ある社会人として歩んでいく決意」を、謝辞で述べられました。

式の後には実行委員会主催の意見発表が行われ、代表して三名が、それぞれの立場で二十歳の決意を発表しました。今年の成人式は、新成人により構成された八名の実行委員の協力により運営されました。

社会に貢献
できる大人に

成人式実行委員
上佐原 唐澤茉実

本日は、私たちのためにこのような盛大な成人式を催していただきまして、誠にありがとうございます。

本日私たちがここに集い、笑顔で成人式を迎えることが出来ますのも、これまで色々な場面で私たちを支え、励まし、導いてくださった地域の皆様や先生方、そして、毎日温かく見守ってくれた家族や友人のおかげです。

多くの皆様に感謝するとともに、新成人一同、心より御礼申し上げます。

さて、私たちは豊丘中学校を卒業してから、五年が経ちます。現在、すでに社会の一員として働いている人、今年の四月から就職予定の人、さらに学生として学業に励んでいる人など立



唐澤茉実さん

場は様々ですが、一人ひとりが自分の行動に責任を持ち、社会の一員として常に向上心を持って前進する覚悟でおります。

とはいえ、まだまだ未熟な私たちです。コツコツと努力を重ね、少しずつ自己を成長させていけたらと思っておりますので、どうか人生の先輩方のご指導とお力添えをよろしくお願いいたします。

結びに、平成が最後となる今年、このような成人式を迎えられたことを誇りに思い、これからは成人とし

責任ある
社会人として

成人式実行委員長
小園 佐々木雄司

本日、晴れて成人の日を迎えることができました。私たちのためにこのような盛大な式典を催していただ



き心から感謝申し上げます。ご来賓の方々からいただいたお祝いの言葉や貴重なお話を深く胸に刻み、新成人を代表し御礼申し上げます。

本日、成人の門出を迎えることができたのは、ひとえに家族や先生方、地域の皆様の温かい愛情とご指導があったお陰であると思っております。

私たちは、成人を迎え大人の仲間入りをしたものの、まだ未熟です。社会に出て働いている人、学生として

ここに、新成人を代表いたしまして、宣誓とさせていただきます。

ての自覚を忘れず、生まれ育ったこの自然豊かな豊丘村に少しでも恩返しができるよう、社会に貢献していきたいと思います。



佐々木雄司さん

（来月号は、意見発表文を紹介します。）

マルシェ支配人の
退任に思う

とよおかマルシェの高木支配人が、十一月末に急遽、退職した。耳に入ってくる情報では嫌がらせが主因であったという。議会や区長会で報告され、十二月村議会の一般質問でも取り上げられ、公になった。今時、そんなことがあっていいも

のか、と多くの人たちが感じると思う。高木氏はマルシェの構想を具体化し、豊丘に実現させた最大の功労者である。経済面だけでない道の駅の目的を達成するミッションには、並々ならぬ苦労や重圧があったことだろう。彼

の功績はとても大きいし、マルシェの可能性や彼に期待して出荷している人たちが大勢いる。嫌がらせの内容は定かでないが、本人や家族にそのように受け止められる言動があったのだろう。彼は仕事を続けたかったが、家族のことを思い、この地を去った。平成が終わろうとする時に、このような出来事が豊丘で起きてしまったことは本当に悲しい。彼を守る

ことができなかった村当局だ白いぞうが言葉巧みにだまされて、農民共々、ひどい扱いを受ける。が、最後はぞうの一群によってオッペルは踏みつぶされ、ぞうも農民も救われる。民衆に寄せ

今、大切なことは二つ。一つはマルシェを応援していくこと。二つ目は「寛容と共生」であると思う。八年後にリニアが開業すると、都市住民との交流が盛んになるのは容易に想像できる。交流は明日の豊丘をつくる活力だ。意見の違いがあっても排他的にならず、彼らを温かく迎え、受け入れていく地域でありたい。

（公民館長 原 国人）

ニコちゃんズの
思い(二)

中芝 春日恵理子

Dさんはピアノが堪能だ。六年生の教室で、教科書に出てくる音楽家の伝記「か

ら「ベートーベン」を選んだ。教室のオルガンで『運命』と『エリーゼのために』のワンフレーズを弾いた後、「この曲を作った作曲家は誰でしょう」と問うと、「ベートーベン」と子どもの間に笑顔が広がった。なのに、読みに入ったら、挿し絵が少ないためか、今ひとつ彼らの反応が悪かったと反省の弁。私は思う。朝の読み

聞かせで、名曲を耳にした子どもたち、その日一日、美しい楽の音が心に響いていたに違いないと。Eさんは、話題として取り上げたい作家（過日亡くなられた）かことし氏や、豊丘村図書館がお招きした、とよたかずひこ氏の作品を読んだり、季節にあった作品を読んだりする。



ニコちゃんズが末長く続いていくことを切に願う。（市立中央図書館文章講座「くらしの中から」三十六集から引用）

新年あけましておめでとうございます。ぼくは、今年大きな声であいさつをするをがんばりたいです。ぼくは、あいさつを返すけれど、小さい声でやるので、むしをしているような感じになってしまっているので、大きな声であいさつを返したいです。もう一つががんばりたい



今年の目標
米山和樹(中芝)



いことがあります。それは、相手の気持ちを考えてしゃべることです。ぼくは、かつてとすぐひどいことを言ってしまう時があるのでそれをやらないようにがんばっていききたいです。その二つのことをきちんとできるようにして、一年にしたいです。

最高学年として

木下 麗(山田)



新年あけましておめでとうございます。

私は、今年ががんばりたいことが二つあります。

一つ目は、最高学年として下の学年のお手本になることです。児童会や金管バンドでみんなを上手くまとめているように言動に気を配っていききたいです。

二つ目は、時間を有効に使うことです。宿題や習い事の練習があつて忙しいのに、少しずつ時間を無駄にしていることがあります。中学生になると、さらに忙しくなると思うので、今から心がけて、趣味や遊びの時間も大切にしていきたいです。

亥年の思い

酒井謙吾(木門)



明けましておめでとうございます。昨年は、悲しい

事がありました。豊丘のおじいさん、須沢の大きいおばあちゃんと二人、他界してしまいました。昨年は、悲しい事が起こりましたがこの悲しみを活かして、今年はずっと笑顔で、笑顔で健康で、一年を過ごし、仕事などで、誰かの笑顔のために「自分が出来る事を一杯取り組み少しずつ努力して頑張っていきたい」と思います。

今年の抱負

原のぞみ(寺垣外)



新年明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしく願いいたします。

豊丘に嫁いで早十年。子育て、仕事に追われる日々を送っています。そのような生活を振り返ると、考え直さなければならぬことがたくさんあります。そこで、今年の抱負としてあげたいことは「褒める子育て」です。「子育ては親の思い通りにはいかないが、親のようになる」といわれるように大変難しいことです。

三人の子育て中、感情的になつてしまい、子どもたちにも悪影響を与えてしまう事もあります。そこで、今年一人ひとりの良いところを見つけて「褒める」ということをがんばってやっていきたいです。

結びに、この亥年が皆様にとつて良い年でありますよう、お祈り申し上げます。

よい年になるように

篠田克己(柿外土)



明けましておめでとうございます。四度目の年男を迎えました。年男だからといって「これをやるぞ!」といった抱負は特にありませんが、今年一年も平穩無事に過ごせれば良いと思っております。

我が家は七人家族ですが、家族一人ひとりそれぞれ役割があつて、お互い支え合つて生活しているのだと感じます。子供達も大きくなり、これから子供達が将来どんな道へ進むのか楽しみです。最後に、この亥年が皆様にとつてよい一年でありますようにお祈り申し上げます。

新年を迎えて

北澤俊規(南市場)



新年明けましておめでとうございます。

今年私が還暦の年男とこのでの原稿依頼をいただきました。

もっと適任者がいると思いましたが、今回だけは受けることにしました。

自分は特別、大きな節目を迎えるとの意識はありませんし、例年と同じように新年を迎え新たな気持ちで取り組むつもりです。

しかし、体力・健康その他いろいろな面で下り坂であることも事実です。今までさほど気にしなかった健康維持を意識しつつ、意欲を持ち、物事に取り組んでいきたいと思っています。

新年おめでとうございます

北林美はる(駒沢二)



定年退職の後、三時間のパートに就いて十年目になる。仕事が終わるとフィットネスの筋トレをしてお昼頃に帰ってくる。午後は、時々黒谷の坂道歩きをして脚を鍛えている。人生百年まだまだ、元気で働いていたい。そして車で国内旅行に出掛けるのも楽しみの一つ。またボランティア活動も細やかながら張り合ひになっている。夜は、三年日記を付けて、図書館で借りた本を読むのが日課だ。

平凡だけど恙無く暮らしている。健康でいられることの有りがたさを日々、感謝している。今年も、良い一年でありますように。

二人きょうだいの長女(二人は七歳下の弟)として、昭和五年に遠山の川合部落の木下家で生まれた。両親は主に米作、養蚕で生計を立てる農家であり、弥生さんには優しく接してくれた。川合部落には二十四軒ほどが暮らしており、同年生が数名いた。学校へは三十分ほどの距離で毎日元気良く通ったが、家は蚕中心の生活で、落ち着いて勉強する部屋が無いのであった。高等科を卒業するまでの八年間で、休んだ記憶が無いほど丈夫であった。卒業する

郷土の良さを後世に!

水野正義(北市場二)



「歳月人をまたず」とはよく云ったもので、今年で七回目の亥年を迎える事になりました。思えば「欲しがりません勝つまでは!!」の、戦時

近い将来、リニア新幹線開通に伴い、我が郷土伊那谷は、良くも悪くも大変革が予想されます。時代に即した対応と共に、地域の豊かな自然や文化を大切に、先人達が培ってきた郷土のよさを、しっかりと受け継いでいく必要があります。そうした仕事の一端を、微力ではありますが、担える事が出来ればと願っています。

現在、豊丘史学会の仕事

シリーズ「元氣な高齢者」⑤2

幼少期に培った自然力で病気知らず

木下弥生さん

八十八歳

林里在住



二人きょうだいの長女(二人は七歳下の弟)として、昭和五年に遠山の川合部落の木下家で生まれた。両親は主に米作、養蚕で生計を立てる農家であり、弥生さんには優しく接してくれた。川合部落には二十四軒ほどが暮らしており、同年生が数名いた。学校へは三十分ほどの距離で毎日元気良く通ったが、家は蚕中心の生活で、落ち着いて勉強する部屋が無いのであった。高等科を卒業するまでの八年間で、休んだ記憶が無いほど丈夫であった。卒業する

とすぐに同年生の四人と一緒に飯田市の多摩川精機へ就職し、五十人ほどが一緒に暮らす女子寮に入った。寮とは言え会社までは徒歩で五十分も要する場所であり、当時は食糧難の時代で水団汁が主食であった。会社は軍需工場故に男女合わせて二百人を募集するほど多忙であったが、二年間で終戦となったのを機に、家族からの要望もあり退職して家に戻った。

勤めた。ここでは服飾、機械加工など幾つもの職種を取り扱っていたが、弥生さんは電機部品のコンデンサー製造に携わり、六十歳までの約三十年間勤めた。小さな部品を加工、組み立てるもので非常に神経を使う仕事であった。戦後の好景気時代突入期に重なり、毎社員旅行で各地へ連れて行ってもらえたことは幸せであった。二人の息子が成長し独立、二人共家を出てからは約三十年間を夫婦二人暮らしであった。しかし二人さんが七十四歳で亡くなってからは約十年間、遠山で一人で過ごしたが、長男から特に嫁さんからの強い勧めがあり現在地の林里へ引っ越した。当初は知り合いも無く寂しい思いがあつたが、近所の同年代の方を中心に次第に仲間が増えて、今では「林里へ移ってきて本当に良かった」と心底思える。話の中で何回か

子供が小さかったころの養育には苦労したが、今となつては懐かしい思いである。現在長男夫婦及び孫との五人暮らしであるが、小柄な体の中に秘めたエネルギーは底知れず、絶やさない笑顔が魅力的な弥生さんであった。

文責 桐崎 長一

公民館報縮刷版 第五輯 発行
平成18年4月～平成27年3月
あの日あの年、思い出せないでいた出来事が、忘れかけていた記憶が、この館報縮刷版ですべてを思い出させてくれます。ご自分の記事が掲載された記念の館報を見れば、あの時どんな気持ちだったかなど思い出も鮮明に甦ってくることでしょう。印刷された冊子と、PDF化されたデータのDVD版があります。お好みの縮刷版を是非お求めください。
館報とよおか縮刷版(印刷・製本)・・・1冊4,000円(DVDデータ)・・・1枚2,000円
お買い求めは、ゆめあるて(電話35-9066)まで

公民館報編集委員 募集
一緒に館報をつくりませんか?
あなたのご参加をお待ちしています!
職務…会議(企画・校正の月2回)への参加、取材等
詳しくは、ゆめあるて(電話35-9066)まで

平成30年村の五大ニュース

平成三十年「あなたが選ぶ村の五大ニュース」に、百九十一名の方に「応募いただきありがとうございます」とございました。開票の結果、館報編集委員会が候補としてあげた十五項目の中から、次の五項目が上位に輝きました。上位五項目を的中させた方の中から五名、応募者の中から十名、抽選した結果、下記の皆様が当選しました。

1位

189票

道の駅「とよおかマルシェ」
四月二十七日
オープン

村民の期待がかかった施設が遂にオープン。五月連休にかけ、大盛況。



2位

165票

笑顔が止まらない、
マツタケ大豊作に
沸く



夏の猛暑から一転して、秋の降雨が幸いしての大豊作。ふるさと納税や、道の駅、マツタケ観光のお客様もにっこり。

3位

113票

河野く高森間の新しい橋の概要が決まり、
名称が募集される



人の交流、物流に大きな成果が期待される新橋がいよいよ動き出す。あなたの付けた名称がずっと刻まれる。

4位

110票

てっぺん公園で
空飛ぶ写真が人気



魔法の箒にまたがって、インスタ映え！あなたも撮った？

5位

107票

「災害級の酷暑」、熱中
症多数と毎週末の台風
上陸で稲刈りもできず



この流行語を生んだ酷暑と相次ぐ猛烈台風の上陸は、私たちの生活や経済に大きな影響を及ぼした。



年も明け正月気分もまだ抜けきらない一月第二日曜日あたりには、伊那谷の伝統行事『どんど焼き』が、正月飾りを集めて各自自治会ごとに催される。門松や福ダルマはもちろん縁起物と書き初めの習字を集めて、このどんど焼きの火で餅を焼き、家に持ち帰って雑煮にして食べるのが昔からの慣しとなっている。自分や子どもの頃は『ホンヤリ』と言っていたが、最近はどんど焼きが一般に呼ばれてきている、どこで

迂回路は山深く来て谷紅葉冬の雨ワイングラスが時刻む枯木道風に押されて踏ん張りぬ冬朝日遙か仙丈岳切絵めく敬老日園児と共に手を繋ぐ西駒の雪消す日和ビザの登オーナー園賑わひまりて秋深む風の度に信濃の山尖り鬼面山の壁焦がしゆく寒夕焼天竜川の瀬音しぐるる夕まぐれ佇立てて登校児等の冬帽子小鳥いままで乗りあし石を茎の石



平成12年柿外土自治会のホンヤリ

焦げ目がついた餅を家に持ち帰り一年の無病息災を願っていた。昔からの風習を今に伝え、さらには子や孫に伝える伝統の素晴らしさを実感するひとコマなのである。

写真／文 宮下正弘

俳句短歌

第21記
ホンヤリ、ホーホ餅持つて来いよ

上五位五項目的中当選者
吉川 勝雄（中平）
原 修穂（小園）
井 涉（城）
春日 文（中芝）
宮下 幸一（上市場）
※五項目すべての中された方は二十一名でした。

磯部セツ子
田中 静
片桐 洋子
森田 恵子
三島 保子
三島 里子
木下 眞水
松岡 照子
宮下 公
宮下 純子
丸山 時子
北原 昭子

「おばあちゃんはあるんだ」と言う四歳児手合ふ姿は一休さん似
「あしたば短歌会」
久びきに霜月の満月澄める空この一年も無事に終わるか
世はまさに百歳時代というけれどまだまだ来年九十歳
歪みたる友の笑顔が気にかかる 夕暮れ近き午後の面会
悲しみに耐える思いと喜びが共に緩むは老いの涙腺
毛涯百合子
たまに来る野良猫見つけ声かける飼猫亡くして一年余り
吹き下ろす山風肌には冷たくも落ち葉は弾み舗装路で踊る
北澤 秀子
九九おぼえ小二の曾孫夕餉どき早口言葉のごと披露する
下通り次つぎ新築進めども空き家増え行く我が家の巡り
壬生 千春
うから等も気づかず吾も言ひ出さず今宵バスデイ耐ハイ二本
受験とふ斯くも厳しき現実に 孫立ち向かへ初の試験を
福澤 亀人

「お詫びと訂正」
十二月号第六九四号四面の豊柳会の西元筆子さんの川柳に誤りがありました。正しくは「このままの暮らし大事に生きる日々」でした。お詫びして訂正いたします。

豊柳会

（豊丘村川柳クラブ豊柳会）

▼課題「半」 福沢勝美 選

条件を付けて半分かえすふり 山本 義彦
半島の国が列島振り回す 桃沢 健介
半端じゃない走り走って新記録 西元 峯子
軸吟：人生を悲喜半々で九十年

▼課題「合」 互 選

人は皆長所と短所合わせ持つ 久保ひろし
一合が今日の癒しに明日の糧 福沢 勝美
お似合いですこの一言でヒモ緩む 林 桃子
▼自由吟 久保ひろし 選

同年と聞いて見かけは目ではかる 安田 喜子
災害の平成暮れはおだやかに 原 美風
年忘れ忘れられない災の文字 市沢 照子
軸吟：耐震化自然に整う二人仲